

朝夕の寒さが身にしみる季節となりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。定期刊行のニュースレター、秋冬特別号をお送り致します。

【目次】

1. 杉会長よりご挨拶
 2. 活動報告
 3. 「会員の声」
 4. 「会員の声」募集
 5. 次号（4月）の予定
-

【1 杉会長よりご挨拶】

秋も深まり紅葉の美しい季節となりました。

会員の皆様には、ご健勝にご活躍のこととお慶び申し上げます。

2017年の日本世代間交流協会の活動も6月17日に行われました理事会・総会の事業計画に則り遂行されております。

厚労省が昨年まで推進していた「地域包括ケアシステム」の構築から、本年打ち出した「我がこと・丸ごと地域共生社会の実現」は、一億総活躍社会を目指して、どのような人々も、そして、どのような世代の人々も、地域の中で役割を持ち関わり認められる社会を実現するという、まさに多世代共生・世代間の連帯を促進するものであり、世代と世代・人と人を繋ぐ「世代間交流コーディネーター」の役割の重要性が高まると考えます。

また、日本が抱える少子高齢化の課題解決が急がれる中で、地域共生社会を実現するために地域住民達で、地域づくりが日本各地で本格的に始まっております。

世代間交流協会の10年余にわたる実践の成果を最大限に生かして地域に貢献する必要が急務と考えます。それには会員相互の情報の共有を一層はかり、地域づくりに注視し、実践の先駆けとなりますようご期待申し上げます。

【2 活動報告】

■日本世代間交流協会活動中間報告■

1. 2017年6月17日、理事会に引き続き総会が行われました。
総会後は「人間相互依存と世代間・高齢者介護の人類学」というテーマで、オックスフォード大学文化人類学教授デーナリー ジェイソン氏によるセミナーを開催しました。
2. 2017年7月31日、日比谷図書文化館において、世代間交流フォーラム公開勉強会を開催しました。世代を超えた人とのふれあい、「地域の多世代による子ども子育て支援」江戸川区のすくすくスクールの実践について江戸川区教育推進課課長柴田靖弘氏の講演に続き、パネルディスカッションを行いました。この開催については高齢社会 NGO 連携協議会の世代間交流チームとの連携によって実現致しました。
3. 2017年8月25日、2017年度日本世代間交流コーディネーター養成（基礎）講座が行われました。本年は両日ともに日本世代間交流協会の事務局である社会福祉法人江東園での両日開催となりました。講師の草野篤子先生、金田利子先生、多湖光宗先生、安永正史先生には貴重な講義をいただきました。
4. 2017年10月、機関誌「世代間交流—老いも若きも子どもも」第17号が発刊されました。12月には会員の皆様にお届け致します。
5. 2016年11月から継続中の「世代間で予防接種の大切さを考えよう日本キャンペーン」を日本世代間交流協会として、今年度も引き続き協力及び後援しております。

今後の事業としては、日本世代間交流コーディネーター養成（アドバンス）講座を残すのみとなりました。また、セミナーの開催なども積極的に行って参りたいと考えております。皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

■ 第 19 回米国 Generations United グローバル世代間交流大会が開催されました ■

2017 年 6 月 13-16 日、ウイスコンシン州ミルウォーキーにて第 19 回米国 Generations United グローバル世代間交流大会が開催されました。数名の協会の先生方も、ご参加されました。本大会に参加したご様子について、草野篤子先生(白梅学園大学 名誉教授)よりご報告して頂きました。

.....

第 19 回米国 Generations United グローバル世代間交流大会報告 草野 篤子

隔年に開催される米国諸世代連合 Generations United のグローバル世代間交流大会が、第 19 回目をむかえ、今年は大湖の畔のウイスコンシン州ミルウォーキーで 6 月 13~16 日まで開催されました。一昨年のハワイ州、ホノルルでの大会と同様、米国国内からの参加者に加えて、11 か国の海外の国々からの参加を合わせて 260 名以上が集まりました。

日本からも、10 名弱の発表者が参加し、活発な討議が交されました。私も、兵庫県立大学の内田先生、兵庫教育大学溝部先生、ペンシルヴァニア州立大学マット・カプラン先生と共同で、「伝統文化における世代間交流」と題して、ワークショップを行いました。急激な高齢社会における伝統文化の継承が危ぶまれる中で、様々な国の祭りや、盆踊り、昔遊び、空手などの格闘技などについて、議論しました。日本文化について多くの方たちが関心を示してくださり、他のワークショップに比較して、かなり多くの参加者が集まりました。

日本世代間交流協会もジェネレーションズ・ユナイテッドに協力して、「世代を超えたワクチン接種」について、国際的な世代間交流キャンペーンを実施してきましたが、それについて、東京都健康長寿医療センター研究所の倉岡先生、スペイン、グラナダ大学のマリアーノ・サンチェス先生、ジェネレーションズ・ユナイテッド執行委員長のドナ・バットさんが、ワークショップを行い、これまでの経過と今後の展望について発表しました。世界には、予防接種が国民一人一人の義務として位置づけられていない国があり、接種費用がかかるため、ワクチンを受けられない子どもや高齢者がまだまだ沢山いることが分かりました。

また、米国の” Grandparents Raising Grandchildren” の発表が、今年も注目されました。これは、父母が病気、離婚、収監、死亡などのため、子どもの世話ができず、祖父母や親戚などが子育てにあたっているという事情からきています。しかし、例えば子供が病気になった場合など、子どもは祖父母の健康保険に入っていないので、命にかかわるような重症になるまで、医者にかかれないなど、多くの問題を抱えています。

今大会は、子ども、成人、高齢者を対象とした健康、教育サービスを行っている聖アン・センターが支援・協力しており、大会前にセンターでのプレ・プログラムに参加した人は、まるでディズニー・ワールドのような広さと、多様な活動を展開していると述べていました。

今大会は、日本からの参加者も、口頭発表だけでなく、ポスター発表にも参加し、大会を盛り上げていました。

■ 世代間交流コーディネーター養成講座 ■

2017(平成 29)年度第 11 回世代間交流コーディネーター養成講座開催
—8 月 25 日(金)～26 日(土)成功(盛況・感動)裏に終わる—

これまでは当協会と白梅学園大学との共催により行ってきましたが、今年から協会独自で実施することになりました。そのため、受講料が大幅に削減され、参加されやすい体制となりました。その一方で、一斉の広報活動が難しくなり、理事一同が協力して講座の参加者集めに奔走致しました。おかげさまで、無事に講座を開催することができ、受講者全員に「受講認定証」を授与することができました。

***** 本年度の講座内容 *****

8 月 25 日(金) 実習 9:30-15:30

8 月 26 日(土) 講義 10:30-19:30

場所: 東京都江戸川区 社会福祉法人 江東園

講師: 草野篤子、金田利子、多湖光宗、安永正史、杉啓以子



■ 『世代間交流—老いも若きも子どもも—』 第 17 号、特定非営利活動法人日本世代間交流協会第 10 号 の発行 ■

本年度も、ユニークな論文や報告が多く掲載されています。戦後 72 年を迎えた今年、孫世代である大学生が地域の祖父母世代や、自分の祖父母へのライフストーリーを直接インタビューした貴重な記録となっており、世界的にも注目されています。当協会の定期刊行物であるこの機関誌は、国立国会図書館の定期刊行物の指定を受けております。皆様のお手元に、間もなく届く予定です。

■ OMEP 第 69 回世界総会・大会が開催されました ■

2017 年 6 月 19 日から 24 日にかけて OMEP (世界幼児教育・保育機構) 第 69 回世界総会・大会がクロアチアで行われた。本大会に参加された協会員の金田利子先生 (東京国際福祉専門学校) よりご報告して頂きました。

Intergenerational Care and Education in Japan –in Terms of Reciprocal Benefit during Life-long Development 「日本における世代間交流保育:生涯発達における相互互恵性の側面から」

金田利子(東京国際福祉専門学校)

この発表では、以下の二点を目的とした。第一に、日本では最近保育における世代間交流実践がかなり進んできたが、世界では一体どうなのか情報共有したいということ、次に、世代間交流保育によって生み出される発達的な効果のメカニズム等に関する理論的構想について、著者の考え方を提起し意見交換をしたいということである。

一つ目については、歴史的に整理した著者作成の表を持参し、日本では、特別早く始められた江東園(1978)を除くと、自然破壊の進行に対してビオトープづくりが始められた頃、高齢化の進行の中でこの発想が取り入れられたためか、1990 年代になって急に増えてきたこと、イベント型や訪問型ではなく日常的で自然な交流が目指されてきていることを示した上で、その実践内容について、江東園の協力を得て、写真入りで報告した。

二つ目については、世代と世代の発達における主導的活動が相互に響きあうとき、まさに発達的な相互互恵性が成り立つのではないか、そのためにはこれまでの、認知の系(ピアジェに代表される)か、動機・態度の系(エリクソンに代表される)かに二分された発達理論では不十分であることをまず述べた。そして、エリクソン・ワロンなどに学び、両者のどちらかが主導になって交互に関連しながら発展していくという視点を生涯にまで発展させた独自の発達過程論を構築し、世代間交流の相互互恵性が説明可能になることを、事例を基に示した。(世代間交流実践の

効果を立証しつつ、「この仮説を世界にも」という自身の思いを実現できたことが、個人的にはまず成果であった)。

英語での報告はニューズレターに出すには長すぎることに、写真入りで重た過ぎるが、ほしい方には添付する。

<この発表から世界への手立て世代交流保育を波及していく手立てへ>

この会場での発表言語は英語であったが、諸国が集まっており、世界 OMEP の前会長（スウェーデン）の息子さんのニクラス・プラムリン氏の報告もあった。彼は、PPT の最後にメールアドレスを載せ、「関心のある方はここへコンタクトを」としていた。本大会の口頭発表には質疑応答の時間がなかったが、意見交換の方法を学んだ。

また、そのセッションが終わった後、どこの国の人かをしっかり聞いておくべきだったが、自分の国でも世代間交流を幼稚園でしたいのだが、まだやれてないので、参考になったと言ってきてくれた人がいた。そういうところから、自主シンポジウムのような場も活用できるので、できるだけ多くの人に参加して発表し、大いに日本の世代間児湯保育の取り組みを示してくる余地がたくさんあると思われた

<多くの発表の中で世代間交流と名の付く発表は?>

ざっとした勘定なので正確な数ではないが様々な形態の発表、口頭発表もポスターもその他のシンポジウムなどを含めると 500 近い発表の中で、これも目を皿のようにしてプログラムを見たのであるが、なんと表題に、intergeneration(世代間交流)に関する用語がつく発表は、私のものであった。このことは、世代間交流保育については日本が先進国であることを証明していると思われた。

<OMEP を通して、世代間交流保育の先進に日本から世界へ>

世代間交流に関する研究は、諸国では、高齢者問題から入っているところが多く、高齢者と子どもの交流の報告もかなりあるが、幼稚園・保育園など通常の幼児教育の場での交流保育の実践は少ないようである。そこで世代間交流協会の皆さんには、ぜひ世界幼児教育・保育機構の世界大会に出かけて、世代間交流保育の先進国日本の実践の報告をと呼びかける次第である。

最後に、OMEP の紹介と来年の大会の案内を少しさせていただく。OMEP とは世界幼児教育・保育機構のことで、M はフランス語の世界の略である。来年は、結成後 70 周年になる記念の年に 1948 年チェコで第 1 回大会があり、来年は記念すべき 同じチェコで開かれ、日本 OMEP も旅行団を組む。ぜひ一緒に。そして世代間交流を高齢者からだけでなく幼児から要求していきける方向を見出し、学会とは異なって交流をも大切にする協会と機構がまた交流しあえたら世代間交流に大きな発展に発展をもたらすのではないという希望が見えてくる。OMEP の世界大会については OMEP Japan の HP に詳しく出ているのでご参照をお願いしたい。

付記：なお、クロアチアに行ったのははじめてで、旅行を通じて感じたことについて、書きましたのでお読み頂ければ幸いです。

*金田利子先生の「クロアチア旅行記」は、次号に掲載予定です。

■ 日本世代間交流学会 第 8 回全国大会 が開催されました ■

10 月 7 日(土)、熊本学園大学にて日本世代間交流学会 第 8 回大会が開催されました。今大会では、「地域社会と世代間交流：持続可能な地域社会の形成のために」をテーマに多くの協会の先生方がご参加されました。本大会に参加したご様子について、協会の草野篤子先生(白梅学園大学 名誉教授)よりご報告して頂きました。

日本世代間交流学会第 8 回全国大会の報告

草野 篤子

日本世代間交流学会の第 8 回全国大会が、熊本市の熊本学園大学で 10 月 7 日に開催されました。昨年 4 月の熊本地震から約 1 年 6 カ月が経ちましたが、未だになお、熊本県内だけでも約 4 万 5 千人にのぼる人々が仮設住宅などで暮らしており、災害公営住宅の建設も、予定通りには進んでいないとのことでした。

一方、学会の方は、「地域社会と世代間交流—持続可能な地域社会の形成のために」を、大会テーマとして、成功裏に行われました。吉津晶子実行委員長の下、多くの実行委員が準備に一生懸命あたってくださいました。シンポジウムは、「熊本地震から地域社会と世代間交流を考える」で、多様な視点からの討論が行われ、内容の深いものになりました。その他に、口頭発表 5 演題、ポスター発表 12 演題と、日ごろの成果を発表する良い機会となりました。学会後の、ツアーでは、二度の震度 7 に揺れた益城町と南阿蘇をめぐり、地域の復興と世代間交流について考えることでした。まずは、益城町にあたらしく生まれた認知症対象のグループホーム「グリーンヒルましき」の訪問、次にテクノ仮設団地集会所みんなの家「[おひさまカフェ](#)」を見学し、話し合いをしました。熊本地震後、熊本学園大学の学生が益城町保健福祉センター 2 階ベランダにカフェを開設したことから始まり、避難者が仮設住宅に移ることに合わせて団地内にカフェも移転。県内最大規模の仮設団地内の子どもからお年寄りまで、幅広い年齢の方々に居場所を提供しています。最後に訪れたのは、熊本地震の際、最も被害の大きかった地域の 1 つで、住民の方に当時の様子を語っていただきました。

日本世代間交流協会および学会では、一刻も早い復旧・復興によって、被災者が一刻も早く元の生活に戻れるか、安心して暮らせる環境が得られることを、心から願っております。

【2 出版物の案内】

■ 『世界標準としての世代間交流のこれから(世代間交流の理論と実践)』

草野篤子・溝邊和成・内田勇人・安永正史編著(三学出版)2017年10月(新刊)

本書では、世代間交流学の確立に向けて、米国、ヨーロッパ、東南アジアで、現在理論的にも実践的にも活躍している11の方がたからの、珠玉の論文を、英文と日本語の2か国語にて掲載されています。加えて、日本からも各方面からの論文が寄せられています。



【3 「会員の声」】

日本世代間交流学会 第8回全国大会に参加して

佐々木 剛(第一幼児教育専門学校)

2017年10月7日(土)に熊本学園大学にて第8回日本世代間交流学会が開催されました。今回の大会テーマは「地域社会と世代間交流～持続可能な地域社会の形成のために～」と設定されており、今回の大会の特徴は大分・熊本地震での地域支援の総括とその検証だったと言えます。今回の日程は研究発表と翌日のエクスカージョンの二部構成となっていました。私は、土曜日の研究発表会のみ参加となりましたが、シンポジウムについて報告します。

シンポジウムでは吉津晶子氏をコーディネーターとして、多田千尋氏、井上ゆかり氏、西原明優氏、原田素良氏の4名によるシンポジストがそれぞれの発表を行っていました。その中で、多田氏が2011年の東日本大震災時に宮城県及び福島県で行ったおもちゃ美術館の取り組みや、井上氏が2011年の熊本地震時に行った熊本学園大学での学生を主体とした地域支援「被災者と共に震災に向き合った14号館避難所の45日間」に私は注目しました。

それは、私個人の考えなのかもしれませんが、前回、第7回日本世代間交流学会での吉津晶子氏の熊本地震と学生ボランティア活動の口頭発表に触発され、私は、学生ボランティアの意識形成と先人・諸研究者の概念の結びつき、そして、その根底の概念に今日の世代間交流学の基礎理論形成の一助を考えていたからかも知れません。

今回のシンポジウムは、くしくも、震災での支援を通して地域と向き合うことについて、物資支援だけではない機能とその活用を届けることの大切さ、そして、中心となる人の育成について明らかにしたと私は考えます。私見になりますが、前回、東京大会で吉津晶子氏は

「地域住民間の希薄化・断絶化した関係性における世代交流のもつ意味とは？」と題する口頭発表を行っております。この発表は副題が「熊本地震における事例から世代間交流を問い直す」となっており大学が率先して地域を支援した背景が、今回の熊本大会で明確化されたと考えます。ちなみに、この東京大会で私は「関東大震災をきっかけとした東大セツルメント」について報告をしました。これには、世代間交流学と地域の関係性を語る時、その理論的な背景として東大（東京帝国大学）セツルメントで語られた「智識の分野」と「社会調査」の考え方を追究しうたい考えたからでした。

今回の熊本大会で、その意味と意義を私は実感することができました。先に述べた多田氏・井上氏の発表以外、原田素良氏は学生として地域に開いた「おひさまカフェ」での実践、西原明優氏の「若葉地区でのネットワークづくり」は熊本学園大学の日常的な地域との関係性から成り立っていたことが語られました。これらの事例は、学生セツルメントでの「智識の分野」と「社会調査」につながっていました。最後にシンポジウム前半に記念講演の代わりにと題されて多田氏が語った『熊本地震から見えたもの』の中から、私が感じたことを報告してまとめにしたいと思います。多田氏はキャラバンの概念に「来れない人のために何が出来るか」を問い続けたと言います。そこからできたものが「押入れのおもちやの活用」「手作りキットの導入」だった言います。「人の為に人は動く」と氏は述べられました。まったくもって同感だと私も思いました。

【5 その他】

「会員の声」ということで、皆さまにご応募を呼びかけています。皆様のご意見や体験談・エッセー・詩・俳句などを、ニュースレターに掲載したいと思っておりますので、世代間交流について思うこと、当協会について感じることなど、どのようなことでも結構ですので、ご意見を以下のアドレスにお寄せ下さい。

[yhoyho05\[at\]tmig.or.jp](mailto:yhoyho05[at]tmig.or.jp)（[at]を@に変更してください）

【6 次号（4月）の予定】

1. 活動報告
 2. 活動予定
 3. 会員の声
 4. その他
-

【編集後記】

今月のニュースレターは、いかがでしたでしょうか。
次号も、どうぞよろしく願いいたします。